

審査講評

公益財団法人ロッテ財団
研究助成事業 選考委員長

1. 2026年度研究助成の応募状況

当研究助成事業の第13回目となる今年度の応募数は、「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」が6件、「奨励研究助成【A】個人研究助成」が198件、そして今回新たに共同研究の助成枠を設けた「奨励研究助成【B】実装型共同研究助成」が25件でした。応募数は、「研究者育成助成」は昨年度の8件からの減少となりました。「奨励研究助成【A】」は、昨年度過去最高の応募数となった251件に比べ、年齢上限枠を従来の40歳に戻したこともあり減少しましたが、過去2番目に多い応募数となりました。「奨励研究助成【B】」は、初年度ながらも25件の応募がありました。

関係各位のご努力により、近年「奨励研究助成」について多数の応募を得られていることは喜ばしいことであり、当財団の助成事業が各研究機関の研究者、関係者の皆様に浸透しつつあるのではないかと考えております。

2. 選考方法、観点

当助成事業の選考委員会を構成している8名の選考委員で申請書全件の書面審査を行い、選考委員会にて活発な議論を交わしたうえ、「研究者育成助成」の面接候補者、および「奨励研究助成【A】」「奨励研究助成【B】」の最終候補者を選考しました。

選考にあたっての審査の観点は以下の通りです。

「研究者育成助成」は、「食と健康」に関する分野において、将来的に卓越した世界水準の研究を成し遂げると期待される若手研究者を発掘し、育成することが目標となっています。このため、申請者が将来、自身の研究分野を切り拓き、同時に切り拓いた研究分野を先導し、社会のために広く貢献していく能力を有する研究者かどうか、さらに、「食と健康」分野でどのように将来を展望しようとしているのかに主眼をおいて審査を行いました。

「奨励研究助成【A】個人研究助成」は、将来、国際的に活躍する可能性を秘めた、優秀で志の高い若手研究者を対象とし、自然科学から人文/社会科学までの広域にわたる「食と健康」分野において、研究上の独創性、チャレンジ性、萌芽性および将来性について審査を行いました。また、「奨励研究助成【B】実装型共同研究助成」では、本申請課題における実装化の達成が十分期待できるか、また申請研究内容から、顕著な学術的および社会的意義が見いだせるか等について審査を行いました。

3. 選考結果

2025年8月21日の選考委員会にて、「奨励研究助成【A】」および「奨励研究助成【B】」の助成対象候補者を選出しました。今年度の「研究者育成助成」の面接候補者については、大変残念ではありますが該当者はありませんでした。

「奨励研究助成」の助成対象候補者については、10月3日の理事会において採択を決定していただきました。

4. 採択課題の紹介

採択課題の紹介ですが、今年は「研究者育成助成」の採択課題がありませんでしたので、「奨励研究助成」のご紹介をいたします。

まず、「奨励研究助成【A】個人研究助成」ですが、今年度は以下の4項目に分類して公募を行いました。

- ・「食の生産から食卓まで」に関する研究
- ・「食を健康的に味わう、楽しむ」に関する研究
- ・「食による健康増進(ウェルネス)」に関する研究
- ・「食を巡る暮らしと文化」に関する研究

各項目の応募数に応じてそれぞれの採択数の目安を決め、選考を行いました。その結果、198件の応募のうち、「食の生産から食卓まで」は8件、「食を健康的に味わう、楽しむ」は7件、「食による健康増進(ウェルネス)」は24件、「食を巡る暮らしと文化」は6件、の計45件が採択されました。採択率は22.7%です。例年通り、「食による健康増進に関する研究」の応募が圧倒的に多かったのですが、新しい分類がなされたことにより、異なる項目間で比較することができなくなり、適切な審査ができたと思います。また、全体として実績に基づいたオリジナリティの高いものが多く、採択者の大部分が、過去3年間に公的助成を得ていることからも、研究レベルの高さを裏付けていると思います。

一方、「奨励研究助成【B】実装型共同研究助成」ですが、採択予定が1,2件のところ、25件の応募があり、予想をかなり上回るものでした。採択されました研究課題は、東京大学農学部・村田幸久先生の「未利用魚資源からの機能性脂質抽出とアレルギー制御食品への応用」と京都大学医学部・横山顕礼先生の「頬粘膜体細胞モザイクに基づく適正飲酒量の個別化とアルコール発がん予防に関する研究」の2件です。採択率わずか8%の超狭き門でした。いずれの研究提案も、論文発表だけでなく、実用化に関してこれまでに素晴らしい実績があり、本申請課題におきましても、必ずや目標である実装化に向けて全力で取り組んでいただけるものと信じております。

以上、「奨励研究助成【A】個人研究助成」及び「奨励研究助成【B】実装型共同研究助成」とともに、第13回研究助成対象者としてふさわしい優秀な研究者が選出されました。本財団からのサポートを基盤に成果を挙げられ、「食と健康」分野の発展に多大な貢献がなされることを期待しております。

最後に、繰り返しになりますが、本年度の「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」の該当者はございませんでした。このロッテ重光学術賞は、財団の助成としては破格の待遇になります。私たち選考委員もその賞にふさわしい方を選ばなければいけないという意識を持っています。これからアカデミックポジションに就こうという若手研究者のためのスタートアップ支援というよりも、すでに独立して研究を推進できるだけの優れた実績を持ち、さらに上のポジションへのステップアップを目指す若手研究者をサポートすることを目指してきました。しかし、今回の応募者数の減少や該当者なしという結果を考えますと、今後さらに選考方針や選考方法などの再検討も必要ではないかと考えております。この本財団研究助成事業の目玉とも言えるロッテ重光学術賞をさらに実りあるものにするためにも、皆様方のお知恵を拝借できればと思います。引き続きご支援ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。